

中間評価	
○ 成果と▽ 課題	● ▼ 期末への方策等
○生徒が安心して学習に取り組めるように教室環境を整えた。良好な学級集団を育成するためにhyper-QU を利用した研修会を行い個々の生徒理解を深めた。 ▽授業の「分かりやすさ」や「つまずき」について、学校評価アンケートを利用して分析を行い授業改善する。	●デジタルドリルを各学年週1回の朝学活前に、各自の課題に基づいて行っている。この学習状況を各教科で確認し、弱点分野を授業の中で補充していく。 ●定期考査の学習計画を立てることにより、生徒一人ひとりに主体的に学習に取り組む力を身に付けさせる。 ▼ディスプレイ型電子黒板の活用方法を研究し、生徒により分かりやすい授業を行う。

中間評価	
○ 成果と▽ 課題	● ▼ 期末への方策等
【国語】 ○生徒に定着させたい能力や内容に応じて、適切な自作のワークシートを作成したり、副教材やデジタルドリルを活用したりすることで、生徒の自主的な反復学習に働きかけを行った。 ○書き方や読み方の方略を重視した授業や、教科書以外の教材を用いた授業を計画・実施することができた。 ▽生徒の学習に向かう姿勢の差が大きく、一斉指導においては、十分に活動できない生徒が一定数おり、導入の工夫に課題が残った。 ▽新宿区学力定着度調査や考査等において、漢字の書き取りや話すこと・聞くことを苦手としている生徒が多数いることが分かった。	●年度の後半に向けて、特に苦手意識の強い生徒の多い古文や近代文学、文法の内容が増えるので、資料集や副教材を活用したり、個に応じた指導で支援の仕方等を工夫したりするなどし、重点的に指導を行っていく。 ●今後も、これまで行っている書き方や読み方の方略を大切にしながら指導方法を継続していくとともに、既習事項を生かした発展的な指導を行っていく。 ▼これまでの活動内容への評価を生かし、個別の振り返り課題を出したり、デジタルドリルの対応個所を提示したりする。また、特に苦手としている生徒が多かった漢字の書き取りについては、授業の帯単元の時間や長期休業中の課題を通じてフォローアップしていく。 ▼自分の考えや意見を伝え合い、考えを深めさせる話し合い活動を今まで以上に取り入れ、合意形成を図る経験をさらにもたていく。
【数学】 中学3年の区学力調査において ○領域1～4のすべてにおいて、全国・新宿区と比較しても良好な得点を記録することができた。特に領域1「数と式」及び領域3「関数」における平均正答率は全国を10%以上上回った。 ○基礎問題においては、全体的に高い得点がみられ、特に連立方程式や1次関数に関する問題で高	●生徒同士でのグループ学習を促し、互いに教え合うことで、問題解決能力や理解を深める活動を増やす。 ●授業内演習や小テストをこまめに実施することで、生徒の理解度を定期的に確認する。そして、理解度に応じたフィードバックを行い、学習意欲を高

い正答率となった。 ▽基礎問題の平均正答率が全国を 9.4%上回っているのに対し、応用問題では 3.1%にとどまった。 ▽全国を母集団とした際、D層の割合が 19.5%となり、新宿区の割合(19.3%)を上回った。	める環境を整える。また、生徒自身に理解度を客観的な数値で理解させる。 ▼習熟度別少人数授業の利点を活かし、特に発展クラスにおいて、様々な応用問題を出題し、応用力、思考力を高める。 ▼D層の生徒の基礎学力向上のために、デジタルドリルや、タブレット端末を活用した計算ドリルなどの繰り返し学習を取り入れる。
【理科】 ○基礎・基本的な学習事項の定着に向けて、一度学習した内容について、授業の始めに行う小テストや学期末に振り返る機会を設定し、繰り返し学習に取り組ませ、定着を図った。 ○応用問題や記述式問題の正答率をさらに向上させていくため、授業内で問題演習を行った。 ▽授業内で、つまずきの原因を見取った際に、様々な実態に即した個別の支援が必要である。 ▽上位層から下位層まで興味関心を惹くような発問をするよう努めているが、分野によって難しい場合があり、発問を工夫していく必要がある。	●生徒が意欲的に反復学習に取り組めるような問題の設定や個々の学習状況に合った振り返りワークシートの工夫を行う。 ●応用問題・記述問題の正答率をさらに向上させるために、過去の入試問題や正答率の低い分野を分析し、自作教材の作成や指導方法を検討する。 ▼新宿区学力定着度調査や考査等から、個別の課題を作成し、上位層にも下位層にも個別指導を展開する。 ▼上位層から下位層まで興味関心を惹くような発問をするための教材研究を行っていくとともに、区内の研修や外部の研修に積極的に参加する。また、教科部会を開催し、授業展開や実験の指導方法等を検討する。
【社会】 ○基礎・基本的な学習事項の定着を図るために、定期的に小テストを行い、繰り返し知識の定着を図った。 ○社会的な事柄を正しく表現できるように、考えを記述する練習やグループやクラスで発表する機会を設けた。また、外部講師を招き、専門的な指導や体験的な学習の機会を設けた。 ○デジタル教科書や視覚資料を多く用いることで、イメージが付きやすいようにした。 ▽単元によって、抽象的な内容になると理解の定着に時間を要してしまう。 ▽社会科的な事柄が多岐に渡るため、十分な活動時間の確保が難しいことがあり、今後も年間指導計画を弾力的に扱うなど、生徒の学びの質を高める指導を展開していく。	●理解の定着を図るために、今後も随時、小テストを実施していくとともに、ディベートや生徒間の教え合い活動などの協働的な学習を展開する。 ●ICT 教材を活用し、地理情報や歴史資料など視覚化して提示することができた。生徒がイメージを共有し、学習課題を明確にすることができた。 ▼タブレット端末等の ICT 機器をより効果的に活用していくために、授業のねらいを明確にし、資料内容を精選しながら動画等の教材を効果的に活用し、理解が深まるよう指導していく。 ▼自分の考えを表現することが苦手な生徒が多いため、挙手や発表だけでなく、記述やオンラインアンケートなど様々な方法で自分の考えを表現する機会を設定していく。
【英語】 ○中学 3 年の新宿区学力定着度調査の平均正答率において、A層とB層の合計が 63.1%と半数以上になっており、D層についても 16.5%で 20%以下	●今後も帯活動で既習の文法を確認し、A L T との活動で表現の幅を増やす活動をするを継続して行っていく。

にすることができた。これは日頃から毎回の授業内で行っている4技能を統合した帯活動の成果だと考えられる。 ○生徒用タブレット端末で、デジタル教科書を活用し、生徒が主体的に音読練習に取り組ませることができた。音読テストの前に細部まで発音確認をすることができた。 ▽会話活動で1分以上テーマを設定せず会話続けることができる生徒がいる一方で、テーマを設定しても会話が続けられない生徒が半数以上いる。	●生徒用のタブレット端末におけるデジタル教科書を音読テスト以外に、英作文やパフォーマンステストで積極的に活用できるよう指導していく。 ▼授業内での会話活動の機会を増やし、既習の文法を使えるようにしていく。ALTと会話する機会を増やすことや学習指導支援員を活用し、個に応じた指導をより充実させることで、外国の方と英語で話すことに自信をもてるよう指導していく。
--	--